

NPO 法人 日本ウミガメ協議会
Sea Turtle Association of Japan



2012年10月～2013年9月

1. 日本におけるウミガメ関連情報のとりまとめ

1-1 2013年シーズン（2012年10月～2013年9月）の日本の産卵情報の収集

日本国内の150機関・個人より、542ヶ所の砂浜のウミガメ類の上陸・産卵情報をいただいた。アカウミガメは496ヶ所の砂浜で15280回の上陸、内427ヶ所の砂浜で9318回の産卵が確認された。また、アオウミガメは206ヶ所の砂浜で2777回の上陸、内169ヶ所の砂浜で1341回の産卵が、タイマイは6ヶ所の砂浜で22回の上陸、内4ヶ所の砂浜で7回の産卵が確認された。また、種の特定できなかった上陸回数は186回、産卵回数は101回であった。（2013年10月24日集計段階）（添付資料 2013年ウミガメの上陸・産卵資料）（石原・亀崎）

1-2 2013年シーズンの漂着死体情報の収集

期間中、日本ウミガメ協議会に報告された漂着死体は711個体であった。内訳はアカウミガメ389個体、アオウミガメ248個体、タイマイ22個体、オサガメ6個体、ヒメウミガメ4個体、クロウミガメ2個体、種不明35個体であった。（石原）

1-3 2013年シーズンの標識調査

2012年10月～2013年9月の間に、24の個人・団体・機関に4701個の標識を配布した。標識個体の再発見情報は134個体について寄せられた。種内訳はアカウミガメ51個体、アオウミガメ75個体、タイマイ4個体、種不明4個体であった。種別の発見状態は、アカウミガメでは混獲21件、上陸・産卵15件、漂着・漂流13件、アオウミガメでは混獲40件、調査のための捕獲40件、漂着・漂流6件、産卵1件であった。（石原・松沢）

1-4 第23回日本ウミガメ会議（志布志湾会議）の開催

2012年11月30日から12月2日にかけて標記の会議を鹿児島県の志布志市で開催した。参加者はのべ950人を越え盛大に行われた。また、会議初日には、志布志市の小中学生約160名を対象にウミガメ出前講座が実施された。海外からの参加者は招待講演者であるピーター・ブリチャード博士がアメリカフロリダから来日した。会議の中では3つのシンポジウム、17件の口頭発表、15件のポスター発表や、上記1-1から1-3の報告・議論を行った。（植月）



第23回日本ウミガメ会議（志布志湾会議） 会：志布志市文化会館 2012.11.30～12.2

1-5 第24回日本ウミガメ会議（牧之原会議）の準備

2012年12月より牧之原市に予算申請を行い、2013年2月より会議の体制を構築、準備委員会を実施しながら、6月より牧之原ウミガメ会議実行委員会を設置した。定期的に実行委員会を開催しながら、会議の内容について協議した。（植月）

1-6 平成25年度 徳島県 自然環境協力員育成委託業務（水辺環境）

徳島県内のアカウミガメ上陸・産卵調査等に関わる人材育成事業を行った。県内の住民から協力調査員を募集したところ、18名が集まった。そして、産卵シーズン前の5月11日（土）に徳島県美波町・日和佐公民館にて、徳島県のアカウミガメ調査についての講習会（参加人数30名）を一般向けに行った。調査結果は日本ウミガメ協議会が収集・まとめを行い、産卵シーズンも終わりの12月14日（土）（来年度）に徳島県にて調査結果の報告会を開催予定である。（植月）

1-7 環境省モニタリングサイト1000 ウミガメ調査 委託業務

本事業は、国内の様々な生態系に忍び寄り変化をいち早く察知するべく、環境省が多くの調査主体の協力により実施している包括的生態系モニタリング事業で、当会はそのうちウミガメの上陸産卵モニタリングと関連情報の調査とりまとめ等を担当している。地域性や産卵規模、継続性などの観点から選ばれた約40箇所について、上陸産卵状況に加え、砂の堆積や温度などの環境について独自の調査を実施し、地域ごとに整理・分析した。また、毎年地域ごとに順次実施している情報交換会については、2月16日に静岡県浜松市の舞阪文化センターにて開催し（参加人数40名）、静岡におけるこれまでの調査研究や保護活動の流れを整理するとともに、各地の状況や懸念される様々な問題について共有した。（植月・松沢・亀崎）

2 国際的な活動

2-1 第33回国際ウミガメシンポジウム（米国ボルティモア）に出席

2013年2月2日から8日まで開催された標記会議に事務局から松沢慶将、石原孝が出席した。なお、石原は漁業者へのインタビューから見えた新たなウミガメの生息場所について口頭発表を、松沢は小型化するみなべ千里浜で産卵するアカウミガメについてポスター発表を行った。（石原・松沢）



2-2 アメリカ合衆国西部太平洋漁業委員会との協働

標記委員会では北太平洋のアカウミガメ個体群の保護のための事業を行っており、亀崎は諮問委員の一人として参画している。これに関連して、以下にあげる事業を担当している。

（1）産卵地における卵および孵化幼体の保全

北太平洋のアカウミガメの数を増やすための具体的な活動として、孵化が望めない場所に産卵された卵の移植や保護柵の設置および、その効果を検証するための孵化率調査を2012年度まで屋久島、宮崎、みなべの3ヶ所で実施してきており、本事業年度はこれらのデータのとりまとめを行った（松沢）

（2）混獲軽減のための基礎資料としての漁業情報の取りまとめ

混獲軽減のための基礎資料としての漁業情報の取りまとめ 混獲の現状を理解するため、地域・季節ごとの漁業の操業状況の聞き取り調査を実施した。本年度は南西諸島の漁港を対象とし、ウミガメ類はここでも主に定置網に混獲されることを確認した。また、ここまでの成果をとりまとめ、国際ウミガメ学会において発表した。（石原）

（3）母浜回帰を念頭においた産卵群のDNAによる識別

米国大気海洋局のPeter Dutton 博士と行った共同研究によって、南西諸島には南太平洋に分布する遺伝子型が多く認められ、出現する遺伝子頻度は屋久島やより北に位置する産卵地のそれとは明らかに異なることが確認されていた。そこで、南西諸島におけるアカウミガメの生態や遺伝的情報を詳しく明らかにするため、鹿児島県の奄美大島において産卵個体の甲長計測、遺伝子解析用試料の収集を行った。今後詳細に分析を行う予定である。（石原）

2-3 在日米軍基地における産卵調査およびアセスメント

在日米陸軍からの委託事業として、読谷村の施設内でウミガメの産卵の可能性がある砂浜での産卵・孵化・環境調査を実施している。本事業年度では、琉球大学ウミガメ研究サークルの協力で、5月から6月まで週5日間、砂浜を踏査し、ウミガメの卵の保護移植、砂中温度や砂の堆積等のモニタリング、脱出孵化調査等を実施した。（松沢）

2-4 日本海ウミガメ漂着ワークショップの開催

この冬、日本海ではウミガメの漂着が相次いだ。その数は、2012年10月から2013年3月までの間に167個体、混獲されたものを含めると232個体になった。過去4年間の記録では、日本海側での漂着は毎年30件程度であり、この冬の漂着の多さは際立っていた。そこで、何が起こっていたのかを可能な限りまとめ、情報を共有しておく目的で、日本海でウミガメの漂着情報をまとめている関係者に呼び掛けて、標記ワークショップを神戸市立須磨海浜水族園と共催で開催した。ワークショップには、学生、一般参加も含め40名の参加があった。漂着が特に多かったのは福井県、石川県、新潟県の3県で、生後半年程度と思われるアカウミガメの幼体が大半を占めていたのが特徴的であった。また、この冬はモダマをはじめとする、熱帯と亜熱帯に自生するマメ科植物の種の漂着も多かったとの情報が提示されたことから、南西諸島で生まれた子ガメが対馬暖流に乗って日本海へ入ってきた可能性が考えられた。その一方で、海洋学的見地からは、この冬の対馬暖流の流れや海水温には例年とは大きな違いは見られないといった情報も提示された。そこで、今後は関係者間でのネットワークを構築して情報共有や意見交換を密にするとともに、まずは子ガメやモダマのDNAを調べ、どこから来たのか、目安を付けていくことになった。（石原）

3 講演・学会発表・普及啓蒙活動

(※各地の報告は5 付属施設の活動に記載)

3-1 講演活動

松沢慶将

浦島太郎が助けたカメ、12/6 ライオン大阪工場

Report on Regional Collaboration since 2011, The 2nd East Asia Regional Meeting at 33rd ISTS, Feb. 4. Baltimore.

East ASIA, IUCN Marine Turtle Specialist Group 2013 Annual General Meeting, Feb. 4. Baltimore

Biology and Conservation of Sea Turtles in Japan. Earth Day Event, Apr. 22th, 2013, US-Army Torii-Station, Okinawa.

ウミガメの恋愛の流儀、7/2 ライオン大阪工場

みなべ町千里浜におけるウミガメ、帝京科学大学サルカメ実習 7/13 和歌山県みなべ町千里観音

アカウミガメ～千里から世界の海へ～、青年クラブみなべ主催ウミガメ勉強交流会 8/11 和歌山県みなべ町千里観音

石原孝

ウミガメのはなし、第23回日本ウミガメ会議出前講座、2012/11/29、泰野小学校（鹿児島県志布志市）

ウミガメの生活史～成長と生活場所～、神戸市立須磨海浜水族園 サイエンスカフェ、2012/12/16、神戸市立須磨海浜水族園

日本のアカウミガメで最近わかってきたこと、東京海洋大学カメゼミ、2013/1/19、東京海洋大学リエゾンセンター

世界に誇るウミガメ天国 日本～天国であり続けるために必要なこと～、カメネットワークジャパン 淡水ガメ調査 夜の講義、

2013/3/16、千葉県君津市

実は身近なウミガメ～ウミガメ天国ニッポン～、ウミガメトークショー、2013/4/26、ハンズ渋谷店 HINT7

ウミガメの涙は涙じゃない～産卵にまつわる不思議～、ウミガメトークショー、2013/5/31、ハンズ渋谷店 HINT7

浦島太郎は何をしたのか？～ウミガメと人とのつながり～、ウミガメトークショー、2013/6/19、ハンズ渋谷店 HINT7

浦島太郎はなぜ助けたか？～ウミガメと人とのつながり～、第2回ウミガメミーティング、2013/6/22、奄美大島渡連キャンプ場

ウミガメの甲らは何のため？～隠れられない甲らの秘密～、ウミガメトークショー、2013/7/24、ハンズ渋谷店 HINT7

日本ウミガメ協議会とは、orgabits 感謝祭、2013/8/29、豊島株式会社

ウミガメは万年生きるのか？、ウミガメトークショー、2013/9/5、ハンズ渋谷店 HINT7

植月茉莉亜

働くとは何か？、2013/5/22、徳島大学

ウミガメについて、2013/8/22、大阪経済大学

3-2 学会・論文等発表

石原・亀崎・岩本・戎井・山下. 高知県室戸岬沿岸に出現するアカウミガメの季節特性. 第51回日本爬虫両棲類学会. 11/10-11. 愛知.

石原・亀崎・石崎. 漁業者への聞き取りから見る日本の沿岸漁業とウミガメの関係. 第23回日本ウミガメ会議. 11/30-12/2. 鹿児島.

石原・亀崎. アカウミガメにみる大型海棲爬虫類の成熟戦略. 第60回日本生態学会. 3/5-9. 静岡.

Ishihara, T., N. Kamezaki, Y. Matsuzawa, and A. Ishizaki. New insights for sea turtle distribution in coastal waters of Japan inferred from fishermen surveys, Japan. 33rd International Sea Turtle Symposium. Feb 2-8th, 2013 Baltimore, Maryland, USA.

田中・松沢・石原・島田. 日和佐大浜海岸における産卵個体のアルゴスシステムを用いた行動追跡2. 第23回日本ウミガメ会議. 11/30-12/2. 鹿児島.

Matsuzawa, Y. and K. Goto. 2013. Body size miniaturization of loggerhead sea turtles nesting on Minabe-Senri Beach, Japan. 33rd International Sea Turtle Symposium. Feb 2-8th, 2013 Baltimore, Maryland, USA.

鶴田・松沢・平井・亀崎・石井. 2013. マイクロサテライト解析を用いた和歌山県千里浜におけるアカウミガメの複数父性の検討, 第60回日本生態学会, 3/5-9, 静岡.

松沢, 2013. 日本海のこれまでのウミガメ研究. 日本海ウミガメ漂着ワークショップ, 4/24-25, 神戸

3-3 普及啓蒙活動

神戸空港「空の日イベント」 ブース出展 2012/11/04 神戸空港

エコプロダクツ2012 2012/12/13-15 出展 東京ビックサイト

東海地区ウミガメ情報交換会開催 2013/02/16 静岡県浜松市

日本海ウミガメ漂着ワークショップ 2013/04/24-25 神戸市

徳島県アカウミガメ上陸産卵調査講習会を開催 2013/05/11 徳島

イルカ with Friends Vol.9 に参加・出展 2013/7/27 河口湖ステラシアター

ウミガメ観察会「ウミガメ・おサカナ・エコツアーリズム」開催 2013/08/17 神戸ラグーン

第11回相良自然環境塾 2013/07/26-28 静岡県牧ノ原市

3-4 その他

(1)メディア協力・監修

テレビ朝日 奇跡の地球物語 (2013/10/27 放送予定) アカウミガメ～小さな命の物語 協力
 フランスの子ども新聞「Le Petit Quotidien」掲載 (2013/2)
 フランスの子ども新聞「Le Magazine des Incollables」掲載 (2013/2)



(2)情報の発信・印刷物の発行等

機関誌「マリンタートラー」の発行

日本ウミガメ協議会の活動を広く周知するために、機関誌「マリンタートラー」第18号を発行した(2013年6月30日)。

ウミガメ速報の配信 計16回(2012年10月1日～2013年9月30日)

ウミガメに関わる個人・団体間での連携と情報の即応性を高めるために、電子メール・ファックスなどを利用し、ウミガメの産卵情報を中心とした情報を不定期に配信した。



「うみがめニュースレター」の発行支援

うみがめニュースレター編集委員会が発行している情報誌「うみがめニュースレター」の原稿を掲載するとともに、発行経費を支援した。事業年度中に No. 93、No. 94、No. 95、No. 96 の4号を発行した。



亀田和成編集 「日本のアオウミガメ」三井物産環境基金助成事業 (*後述 4-3)

(3)東京大学大学院大学院生への研究協力

岡本慶/上野真太郎

(4)卒論指導

なし

(5)インターンシップの受け入れ

島崎知美/濱田暁聖(大阪コミュニケーションアート専門学校)/中崎裕子(関西学院大学)/角田皓太(関西学院大学)/大阪経済大学ほか

4 個別プロジェクト

4-1 ウミガメ義肢プロジェクト(悠ちゃんプロジェクト)

2008年6月に紀伊水道にて、前肢をサメに食いちぎられたアカウミガメが混獲された。これを機に翌年3月からヒトの義肢を制作している(株)川村義肢の協力の下、ウミガメに人工ヒレを装着するウミガメ人工ヒレ開発プロジェクトを開始した。現在では(株)川村義肢の他、ウミガメの遊泳速度等の解析していただいている東京大学佐藤克文氏やウミガメの運動機能に関して解析をしていただいている大阪大学の加藤直三氏、ウミガメの幸せ度について解析していただいている京都大学の阪上雅昭氏に協力を得て、開発を進めている。今年さらには高速水着の開発で有名な山本化学工業にメンバーに加入していただいた。5



年目になる本プロジェクトは、2012年10月10日、11月4日、12月9日、2013年2月11日、3月20日、4月18日、6月5日、7月15日、8月12日、17日、9月15日、29日に人工ヒレ装着試験を行い、人工ヒレは徐々に完成に近づいている。（亀崎・谷口・三根）

4-2 大阪湾ウミガメレスキュープロジェクト

大阪湾内に出現するウミガメ類は、年間十数個体確認されており、水温が低下する時期まで湾内に留まり、高い確率で事故に遭遇し傷つき或いは死亡する。そこで大阪湾およびその周辺で偶発的に捕獲されたウミガメ類を水温が低下する12月上旬まで閉鎖性の避難所（神戸空港島人工海水池）に収容し、必要に応じて治療を施す事業を実施した。今年度は、漂着個体の情報はアカウミガメ1件、アオウミガメ2件あったものの、生存した状態の個体の情報は得られず収容に至らなかった。（亀崎・谷口・三根）

4-3 グリーンタートルサンクチュアリープロジェクト（三井物産環境基金）

2005年度、当会が受けた三井物産環境基金の助成事業で、日本近海には海藻・海草を主食とするアオウミガメ (*Chelonia mydas*) にとって重要な摂餌域が存在することが明らかとなった。また、2007年度の本助成事業では、全国に約100万人いるとされるダイバーからウミガメ類の目撃情報を収集し（ダイバーズプロジェクト）、日本沿岸ではアオウミガメが最も多く目撃され、さらに幾つかの海域には、多くの個体が集まって生息する場所も確認された。しかし、これまでアオウミガメの生息地の中心は、産卵場所となる日本より南の熱帯海域にあると考えられており、近年、集まってきた西部太平洋からのウミガメに関する情報の中にアオウミガメの重要な生息地を示唆するような資料はない。つまり、これまで熱帯海域の島嶼部の産卵地は重要視されてきたが、それに加え、西部太平洋の浅海域、特に日本沿岸の藻場がアオウミガメの餌場として重要な海域である可能性が出てきた。そこで、本助成事業（2010年より3年計画事業）ではこれまでに当会が集積したアオウミガメの漂着死体や漁業による混獲に関する情報を整理する。またダイバーズプロジェクトでアオウミガメが多く目撃された海域をさらに詳細に調査を行う。その結果から、本種にとって重要と考えられる索餌海域を明らかにする。そのいくつかの海域を（グリーン・タートル・サンクチュアリー：Green Turtle Sanctuary）として選定し、その海域を保護区とするようダイバーや漁業者、行政さらにアオウミガメが回遊する関係各国に提言することを目的としている。本事業により今年度はアオウミガメの現状を広く市民に啓発するために「日本のアオウミガメ」を発刊した。（谷口・亀崎）

4-4 ウミガメの混獲死低減のための技術開発プロジェクト

本プロジェクトは須磨海浜水族園、在メキシコ NGO grupo tortuguero、漁業者、他機関の研究者との協働で行われて来た。本年度の実験は行われなかったが、水産庁より海亀混獲防止対策事業として予算が付き、これまでの協力者・協働団体との協力体制はそのままに、東京海洋大学、日東製網、日本定置協会、国際水産資源研究所との共同事業として、枠組みを新たにした。実験は2013年度に再開される。（石原）

4-5 アカウミガメで新たに確認された南西諸島グループの実態調査プロジェクト

これまでに行った遺伝学的な調査の結果、日本で産卵する北太平洋のアカウミガメは、前述の南西諸島グループと鹿児島県屋久島以北に産卵地を持つ本土グループとに分かれることが明らかになった。この結果を踏まえてこれまでの知見を振り返ると、南西諸島グループと本土グループでは餌場とする生息地も異なっている可能性が高い。そこで、今年度も奄美大島においてアカウミガメの産卵個体の甲長の計測、遺伝的な解析のための試料採取を行った。また、本事業では嘉陽宗幸氏と琉球大学ちゅらがーみー、沖永良部島ウミガメネットワーク、奄美海洋生物研究会と渡連キャンプ場の荒田政行氏のご協力をいただいた。（石原）

4-6 鹿児島県野間池におけるウミガメ類混獲調査

鹿児島県南さつま市野間池に設置されているしろせ定置網の所有者兼当会理事宮内叶氏の協力の下、同定置網に混獲されるウミガメ類の調査を行なった。本調査は、毎朝実施される定置網漁においてウミガメ類の混獲が確認された場合、種同定、甲長甲幅等の体サイズ計測を行なった後、左右前肢に標識を装着して放流するというものである。2012年10月1日から2013年9月30日の間には、合計222個体のウミガメ類が混獲され、種の内訳はアカウミガメ38個体、アオウミガメ175個体、タイマイ2個体、クロウミガメ1個体、種不明6個体であった。来年度以降も継続して調査を実施していきたい。なお、本調査の一部は三井物産環境基金による助成を受けている。（渡辺）

5 付属施設の活動

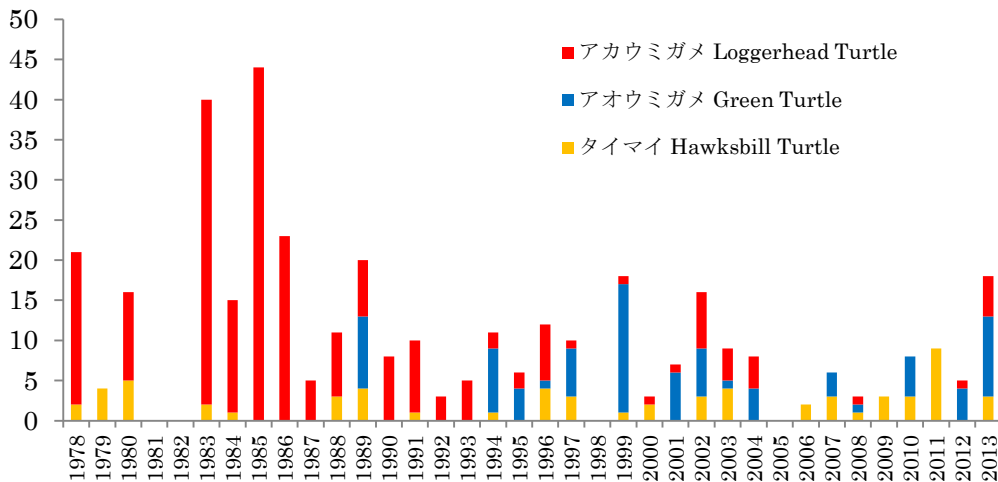
5-1 黒島研究所の活動

I-1. 主な調査・研究活動

●ウミガメ類の上陸産卵調査（主に黒島西の浜、西表島南岸のウブ浜とサザレ浜）

黒島におけるウミガメ類の上陸は26回、そのうち産卵は24回であった。西の浜ではアカウミガメの上陸5産卵5、アオウミガメの上陸12産卵10、タイマイの上陸3産卵3であった。1978年からのウミガメ類の産卵上陸数を図に示す。西の浜以外の場所では、保慶海岸でアカウミガメの産卵1回、研究所の前の浜でタイマイの上陸1回、ンギストワンの前の浜で種不明の上陸1、ユラキ浜で種不明の上陸1であった。

西表島の南岸のウブ浜とサザレ浜では4回の調査を実施した。その結果、サザレ浜でアオウミガメの上陸39産卵22、ウブ浜でアオウミガメの上陸45産卵39であった。なお、イノシシによるウミガメ卵の捕食は、ウブ浜で35産卵巣であった。



西の浜におけるウミガメ類の産卵巣数の推移

西表島のウブ浜とサザレ浜におけるウミガメ類の上陸・産卵状況

地点名	上陸跡数	産卵跡数	アカウミガメ		アオウミガメ		不明	
			上陸	産卵	上陸	産卵	上陸	産卵
ウブ浜	49	39	0	0	45	39	0	0
サザレ浜	39	22	0	0	39	22	0	0

●ウミガメ類の標識放流調査

2012年10月から2013年9月までにアカウミガメ1回、アオウミガメ91回、タイマイ4回の合計96回標識放流をした。再発見はアオウミガメ21回、タイマイ1回であった。

I-2. 講演・発表

黒島研究所の活動. 八重山の自然と暮らしの合同ポスター展 in 与那国 若月

I-3. 論文・報告書

亀田和成・浅利 祐美子・杉谷 香世・若月 元樹. 2013. 西表島におけるウミガメ類の漂着状況. うみがめニュースレター, 96: 2-8.

亀田和成・若月元樹・亀崎直樹. 2013. 八重山諸島黒島の摂餌海域におけるアオウミガメの個体群構造と成長速度. 沖縄生物学会誌, 51: 93-100.

K. Kameda, T. Mezaki, K. Sugihara. 2013. Catalog of the reef-building corals deposited in the Kuroshima Research Station. Second edition. Sea turtle Association of Japan, Kuroshima Research Station. Okinawa Pref. 137 pp.

亀田和成 (編). 2013. 日本のアオウミガメ. NPO 法人日本ウミガメ協議会. 大阪. 138 pp.

II. 利用研究者・学生

2012年

11月 原田 大阪大学大学院 (博士論文)

12月 原田 大阪大学大学院 (博士論文)

杉原 国立環境研究所 (サンゴ調査)

藤田 天理大学 (船調査)

- 濱田 大阪コミュニケーションアート専門学校 (研修)
- 2013年
- 1月 一橋 生物生産工学研究センター (ナマコ研究)
山田・川名・平澤 文京学院大 (フィールドスタディー)
 - 2月 佐々木 琉球大学風樹館 (ホタル調査)
島袋 琉球大学風樹館 (蕈算調査)
高橋・落合 文京学院大 (フィールドスタディー)
大湾・長井 沖縄ペットワールド専門学校 (研修)
 - 3月 古澤・川村 文京学院大 (フィールドスタディー)
笹井・佐久本・清水・吉谷 琉球大学 (研修)
鈴木・國光 甲南大 (研修)
一橋 生物生産工学研究センター (ナマコ研究)
桜井 広島大学総合科学部 (ナマコ研究)
 - 5月 荒井 (研修)
 - 6月 高橋 川越高校 (ウミヘビ研究)
 - 7月 藤井 海洋大 (学芸員実習)
谷崎・貫井 海洋大 (研修)
木寺 (ウミヘビ調査)
 - 8月 原田 大阪大学大学院 (博論)
中澤・三枝・岡倉・加藤 海洋大 (研修)
優谷 藤田医大 (研修)
川島・佐久本・福川・野中・琉球大 (研修)
吉田 岐阜大 (研修)
一橋 生物生産工学研究センター (ナマコ研究)
柏原・喜多・松井・保科・矢田・黒田・大田・加藤
三重大 (研修)
前田 甲南大 (研修)
 - 9月 佐久本・植原 琉球大 (研修)
河合 琉球大 (修論)
谷崎・中澤・松尾 海洋大 (研修)



マーメイドショー



穴掘りの魅力に気がついた学生

III. 団体の受け入れ

- 2012年
- 10月 石垣島アースライドツアー
 - 11月 セントラルスポーツツアー
 - 12月 奈良県立五條高校修学旅行
- 2012年
- 1月 農協観光ツアー
 - 3月 箕面自由学園修学旅行
 - 3月 セントラルスポーツ
JTB北海道ツアー
 - 5月 石垣小・登野城小・真喜良小遠足
 - 6月 竹富町婦人連合会
 - 7月 そらまめキッズアドベンチャー



ナイトミュージアム

IV. 新聞掲載・テレビ出演等

- 2013年
- 3月 沖縄まるごと産地飯 関西テレビ
 - 4月 タイマイ輸送作戦
NHK、八重山毎日新聞、八重山日報
石垣経済新聞、琉球新報、沖縄タイムス
 - 5月 おきなわHOT EYE NHK
沖縄熱中クラブ NHK ラジオ
 - 6月 Nスタ TBS
 - 7月 おきぎんふるさとシリーズIV
 - 8月 ほこ×たて フジテレビ
 - 9月 アニマルプラネット



アーサの砂取りをする団体客

V. その他

入館者数 9855 人 (2012 年 10 月～2013 年 9 月)

ウミガメ勉強会 冬休み、春休み、夏休み、5 月の大型連休などの連休時に毎日
マリンガイド・ナイトガイド随時
新石垣空港ウミガメ調査 委託事業

2012 年

- 10 月 若月 沖縄県博物館協会参加
- 11 月 亀田 石西礁湖自然再生協議会参加
- 1 月 若月 八重山の自然と暮らしの合同ポスター展
- 2 月 若月 情報交換会・沖縄亀宴会
- 3 月 知名 沖縄県水産課 (視察)
小柳 東洋コウモリ研究所 (視察)
- 5 月 若月 八重山環境ネットワーク総会
- 6 月 若月 沖縄県博物館協会参加
亀田 動物取扱業務研修
若月 黒島小中学校 120 周年式典
- 7 月 八重山の自然と民俗ポスター展の開催 in 黒島
権田 WWF しらほさんご村 (視察)
- 8 月 黒島ビジターセンター運営協議会
黒島ナイトミュージアム開催
小橋 沖縄県海区委員会 (視察)
- 9 月 若月 やいま村 10 周年記念式典



ウミガメ勉強会
現在は船会社と共同で実施している



八重山の自然と民俗ポスター展

VI. 現在実施中のプロジェクト

- タイマイ野生復帰プロジェクト (名古屋港水族館共同研究)

(若月・亀田)

5-2 室戸基地の活動

I. インターンシップ生・卒論・修論研究生等の受入

なし

II. 主な調査・研究活動

ウミガメ類の上陸産卵調査 (室戸周辺)
室戸定置網で混獲されるウミガメ類の標識放流調査 (椎名、三津、高岡漁港)
ストランディング・孵化調査
高知県室戸定置網における混獲・廃棄魚問題の解決及び有効利用に向けた研究



III. 共同研究

ウミガメ類の体内に蓄積される化学物質の分析 多田哲子 (京都府保健環境研究所)
日本沿岸のアオウミガメの遺伝子解析 浜端朋子 (京都大学大学院理学研究科)
化石海生爬虫類の生態・生理の復元を目的とした骨組織学的研究 中島保寿 (ボン大学・シュタインマン研究所)・林昭次 (大阪市立自然史博物館)

IV. 調査結果

確認されたウミガメ類 (個体数)

大敷網 (高岡、三津、椎名) :
アカウミガメ 163 個体
アオウミガメ 63 個体
クロウミガメ 1 個体
ヒメウミガメ 1 個体
オサガメ 2 個体

イセエビ刺網：
アオウミガメ 2 個体

漂着個体：
アカウミガメ 9 個体
アオウミガメ 14 個体

上陸産卵個体：
無し

V. その他

2012 年

- 10 月 室戸くろしお祭りにウミガメ協議会紹介のブース展示参加
椎名にて 2012 年に小笠原でタグ付けされたアオウミガメ混獲
- 11 月 ジオパーク全国大会にウミガメ協議会紹介のブース展示参加
- 12 月 シンポジウム「四国の自然は今」にウミガメ協議会のブース展示参加

2013 年

- 1 月 高知県東洋町生見海岸にてアオウミガメのストランディング調査
- 4 月 室戸とんがり市にウミガメ協議会紹介のブース展示参加
- 5 月 SCL700mm 以上の個体へのエコー検査開始
徳島県鞆浦漁港にてオサガメのストランディング調査
高知県中土佐町小草海岸にてアカウミガメのストランディング調査
- 6 月 元小学校にてウミガメに関する出前授業
- 7 月 徳島県牟岐西漁協にてアオウミガメのストランディング調査

(渡辺・河野・石原)

5-3 みなべ基地の活動

6 月 10 日から 9 月 13 日まで、みなべ町教育委員会から支援を得て千里観音内の調査基地に常駐し、みなべウミガメ研究班（代表：後藤清理事）および青年クラブみなべと協働で、千里の浜における夜間パトロール調査を実施し、産卵メスの個体識別および産卵巣へ食害対策用の竹網・金籠の設置を行い、随時、孵化率調査を実施した。また、この期間を通じて、周辺の砂浜（岩代浜、小目津浜、南部浜）での痕跡調査を昼間に実施した。なお、食害対策および孵化調査については、株式会社ライオン大阪工場のボランティアの皆様の協力を得た。（松沢）

5-5 東京事務所の活動

首都圏で行われる各種講演会、報告会、説明会、会合に参加し、エコプロダクツやイルカコンサートにブース出展を行った。室戸調査基地での調査・研究活動の指導や補佐、宮崎県での混獲調査活動の指揮をとり、定置網用ウミガメ類脱出装置開発実験の準備をおこなった。また、南西諸島におけるアカウミガメの調査を実施した。東京大学大学院農学生命科学研究科とも連携し、研究上の情報交換を日常的に行った。

(石原)

6 その他

6-1 ミシシippアカミミガメ防除調査

兵庫県明石市の谷八木川において、外来生物法により要注意外来生物に指定されているミシシippアカミミガメ *Trachemys scripta elegans* (以下、アカミミガメ) の防除を行った。2013 年 5~6 月の 15 日間にカメ専用の捕獲網を合計 1109 個設置し、合計 1634 個体のアカミミガメを捕獲し、川から取り除いた。

(谷口・三根)

以上